

1 調査名称：上山市都市計画道路見直し検討業務委託

2 調査主体：上山市

3 調査圏域：上山市域

4 調査機関：平成 27 年度

5 調査概要：

本調査は、都市計画道路として都市計画決定されたものの長期未着手となっている線路について「平成16年度山形県都市計画道路見直しガイドライン」に準拠し、「都市計画区域・都市計画道路調査報告書（H11.3）、平成17年度 都市計画道路見直し計画」の内容に基づき、社会経済状況の変化等を踏まえて長期未着手区間の抽出、アンケート調査結果、道路の必要性・事業可能性の検証を行うものである。

## I 調査概要

### 1. 調査名 上山市都市計画道路見直し検討業務

### 2. 報告書目次

序章 業務の概要

序－1 業務の目的

序－2 業務の範囲と流れ

第1章 状況、上位計画及びの整理

1－1. 自然環境、社会環境等の諸条件把握

1－2. 上位関連計画の把握

1－3. 対象道路を取り巻く社会経済情勢の変化

第2章 都市計画道路見直しの検討

2－1. 長期未着手区間の抽出

2－2. 都市計画道路の必要性・事業可能性の検証（※市道部分のみ）

第3章 住民意向調査

3－1. 調査概要

3－2. 調査結果-問5

3－3. 調査結果-問10

資料編

資－1. カルテ対象区間のアンケート調査の整備要望

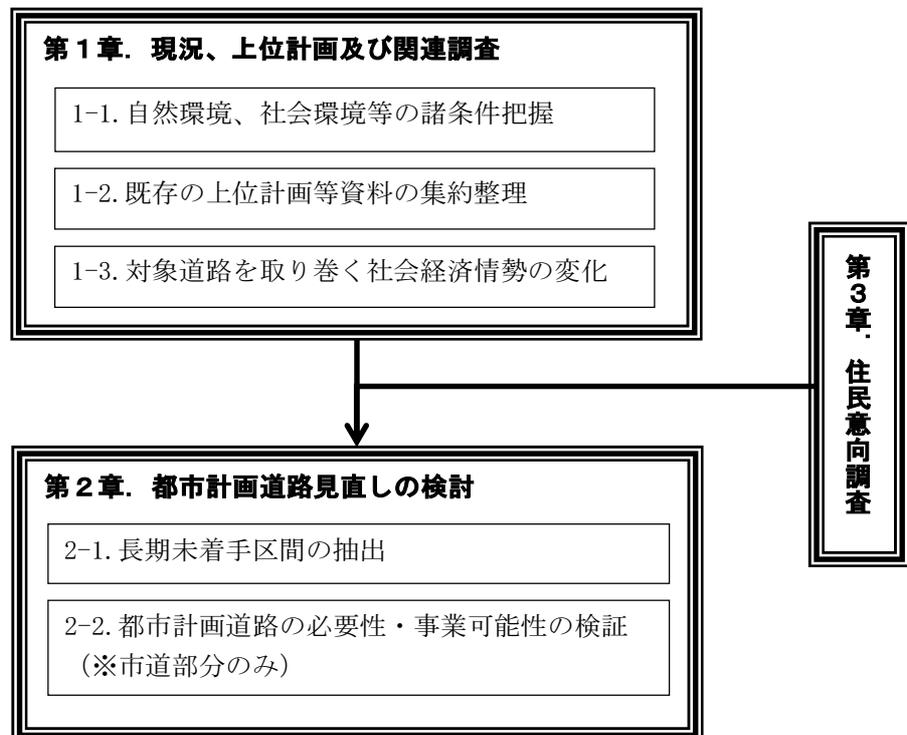
## II 調査結果

### 1. 調査概要

本調査は、都市計画道路として都市計画決定されたものの長期未着手となっている線路について「平成16年度山形県都市計画道路見直しガイドライン」に準拠し、「都市計画区域・都市計画道路調査報告書（H11.3）」、「平成17年度 都市計画道路見直し計画」の内容に基づき社会経済状況の変化等を踏まえて長期未着手区間の抽出、アンケート調査結果、道路の必要性・事業可能性の検証、見直し方針の検討等を行うものである。

なお、道路の必要性・事業可能性の検証については、県との協議が必要なことから、次年度も行うものとする。

### 2. 調査フロー





## 4. 調査成果

### 1. 対象道路を取り巻く社会経済情勢の変化

#### 1. 1 上山市の自然環境、社会環境等の問題点整理

- 半円状の盆地が形成されており、山形市とは比較的連絡しやすく、それ以外は標高差がある。
- 人口と帯当たり人口は平成2年以降、減少傾向にあり、人口減少や核家族化が進んでいる。
- 65歳以上の人口は増加し続けており、高齢化が進んでいる。
- 近年は毎年、約400～500人の人口が減少しており、6年間で2,600人近く減少している。
- 自然減が社会減を約50～100人上回っており、この傾向が続くと更なる少子高齢化を招く。
- 通勤者・通学者の流入・流出率は共に増加傾向にあるが、通勤者数・通学者数は減少している。
- 通勤・通学には主に自動車が用いられており、交通分担率は7割を上回っている。
- 将来人口は、25年後の平成42年には現在の約8割、55年後の平成72年には現在の約5割になることが推計されており、人口減少に伴う交通量の減少が想定される。
- 今後も就業者人口の減少傾向が続けば、それに伴う業務での交通量減少が想定される。
- 観光客数は減少傾向にあり、総宿泊施設数も減少している。
- かみのやま温泉駅の利用者は減少傾向にある。
- 市街地の東西両端を南北方向に通る国道13号と国道458号は1日あたり1万台以上の交通量がある。  
平成17年と比較すると、国道13号は減少しており、国道458号は増加している。
- 市街地内で交通量が増加しているのは上山七ヶ宿線のみであり、市全体でみても交通量が減少している路線の方が多くなっている。
- 長期期間未整備および既成済区間を有している路線は10路線あり、整備の実現性を考慮する必要がある。また、1.3.1山東根線等の路線が一部整備中である。

#### 1. 2 上位関連計画から求められるまちづくりの方針等

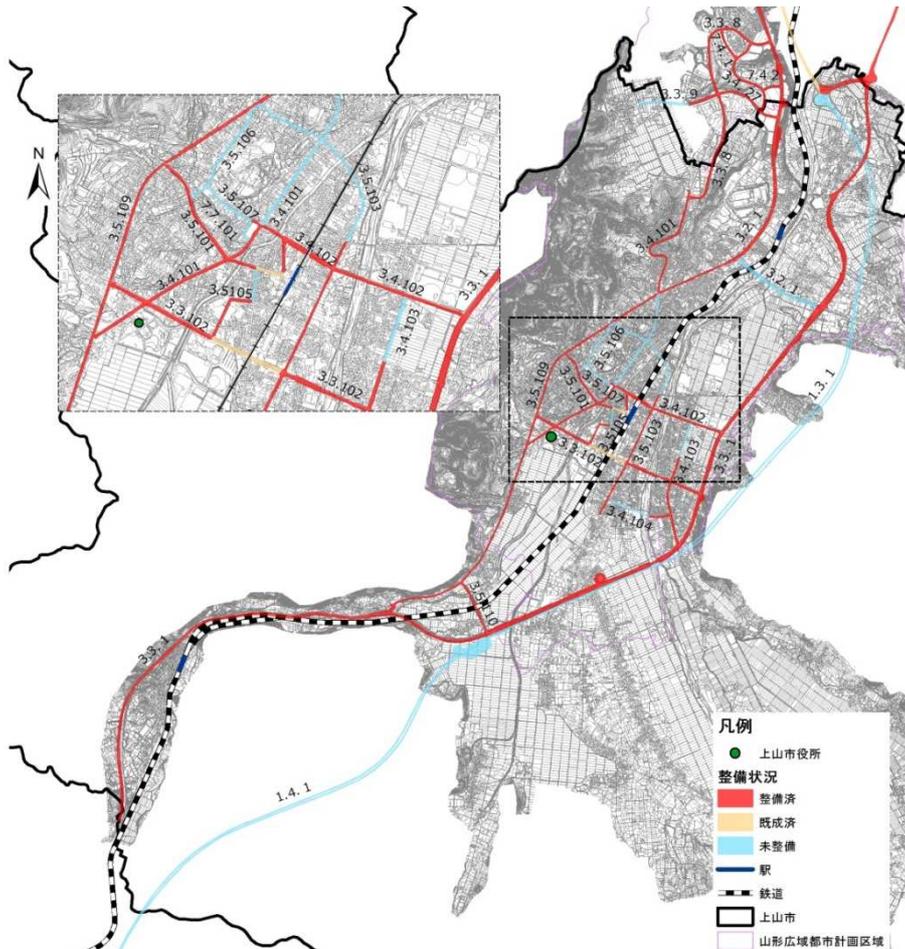
- 投資的経費については、優先度等を十分考慮し計画的・効果的な支出に努める。(第7次)
- 少子高齢化に対応し、地域の活力を創出するため、集約型都市構造を目指し、安全性の向上、環境への負荷低減、景観に配慮した拠点性の高いコンパクトなまちづくりを推進する。(第7次)
- 長期間未着手となっている都市計画道路について、総合的な検証を行い、都市の将来像の実現に向けた都市計画道路の見直しを行う。(県ガイドライン)
- 広域交通では広域交通ネットワーク機能の強化と各市街地との連携強化を図る。(整開保)
- 市街地内交通では既成市街地を中心に安全性・利便性の高いネットワークづくりを図る。(整開保)
- 交通施設の整備においては地域に合った道づくりを進める。(整開保)

## 2. 長期未着手区間の抽出

長期未着手区間の抽出作業の考え方に則り、道路種別が幹線道路で都市計画決定から30年以上経過している長期未着手区間を抽出すると7路線が対象となる。

図表 都市計画道路整備状況

番号	路線名	種別	総延長	代表幅員	車線数	市内延長	整備状況	当初決定年	最終変更年
1.3.1	上山東根線	自動車専用道路	36,300	23.5	4	9,070	整備済、未整備	H2/9/11	H12/12/5
1.4.1	南陽上山線	自動車専用道路	15,110	21.5		4,840	未整備	H8/5/21	
3.2.1	上山山形西天童線	幹線街路	20,170	30.0	4	3,080	整備済、未整備	H10/2/6	H14/12/13
3.3.1	上山山形天童線	幹線街路	40,700	24.5		14,800	整備済	S39/7/13	H9/4/22
3.3.8	松原四ッ谷線	幹線街路	2,910	22.0	2	760	整備済	H10/10/2	H11/12/14
3.3.9	金瓶久保手線	幹線街路	1,730	22.0		520	整備済、未整備	H10/2/6	
3.3.102	河崎金生線	幹線街路	2,110	22.0	2	2,110	整備済、既成済	S39/7/13	H12/12/5
3.4.27	金瓶松原線	幹線街路	1,090	18.0	2	90	整備済	H10/2/6	H11/12/14
3.4.101	高松四ッ谷線	幹線街路	4,120	16.0	2	4,120	整備済、未整備	S25/7/15	H12/12/5
3.4.102	八日町仙石線	幹線街路	1,190	16.0	2	1,190	整備済	S39/7/13	H12/12/5
3.4.103	金生東町線	幹線街路	1,500	18.0	2	1,500	整備済、未整備	H5/3/26	H12/12/5
3.4.104	長清水金生線	幹線街路	770	16.0	2	770	整備済、未整備	H5/3/26	H12/12/5
3.5.101	かみのやま温泉駅松山線	幹線街路	1,020	15.0	2	1,020	整備済、既成済	S39/7/13	H12/12/5
3.5.103	長清水湯町線	幹線街路	2,680	12.0	2	2,680	整備済、未整備	S39/7/13	H19/6/22
3.5.105	矢来南町線	幹線街路	590	12.0	2	590	整備済、未整備	S39/7/13	H12/12/5
3.5.106	湯町松山線	幹線街路	740	12.0	2	740	未整備	S39/7/13	H12/12/5
3.5.107	かみのやま温泉駅新湯線	幹線街路	780	12.0	2	780	整備済、未整備	S25/7/15	H12/12/5
3.5.109	川口弁天線	幹線街路	6,280	12.0		6,280	整備済	S54/7/9	H10/2/6
3.5.110	石曾根赤坂線	幹線街路	680	12.0		680	整備済	H5/2/9	
7.7.101	二日町沢丁線	区画街路	150	8.0	2	150	未整備	S54/10/11	H12/12/5



資料：上山市

## 2-2 都市計画道路の必要性・事業可能性の検証

長期未着手区間の見直しの必要性を判断するために、都市計画道路としての位置づけを明確にする。さらに、既存ストックの活用やまちづくりなどを考慮し、都市計画道路の必要性と事業実施可能性の点から各区間の評価を行い、見直し検討対象区間のカルテを作成する。なお、現道の有無によって、必要性・事業可能性の検証結果が異なるため、7路線を11区間に分割しカルテ形式で検証を行う。

### (1) 必要性・事業可能性の検証作業の考え方

#### 1) 都市計画道路の必要性の検証

都市計画道路は、都市の将来像実現のために必要な路線として決定されたが、時間の経過とともにその役割や必要性が変化していると考えられる。以下の方法により各都市計画道路の必要性を確認する。

1. 都市計画区域マスタープラン（県決定）に位置づけられている路線は現決定のままとする。
2. 都市計画区域マスタープランに位置づけられていない路線は道路機能を検証する。

#### 2) 事業実施の可能性の検証

事業実施の可能性については、当該未着手都市計画道路（区間）に取って代わる他の道路があるか否かを確認する。また、事業実施上配慮すべき建築物などがある場合は、見直し検討対象区間として抽出する。

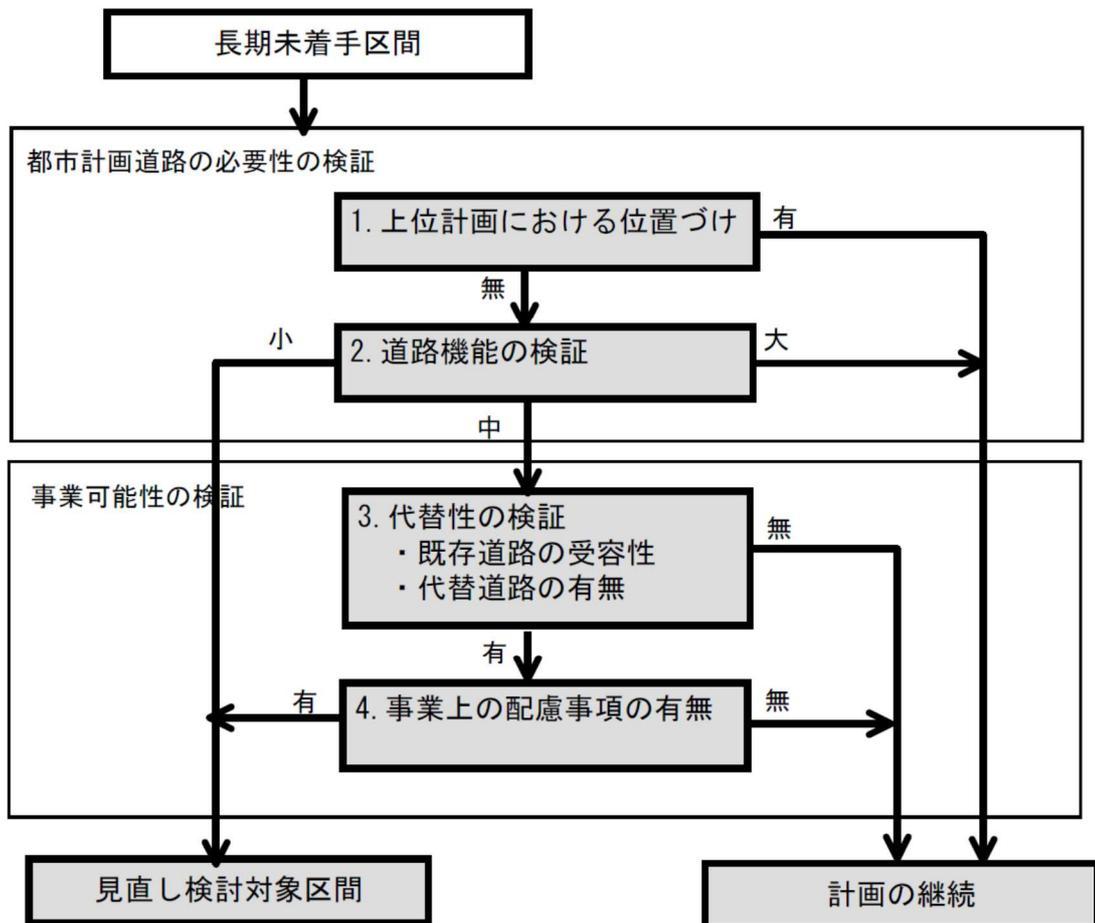


図 都市計画道路の必要性・事業可能性の検証フロー

資料：山形県都市計画道路見直しガイドライン

### 3 アンケート調査結果

#### (1) 身近な道路について

○年代別と居住別

- ・領域A：【改善優先領域】：20歳代・50歳代、本庁

満足度が低く、重要度が高い領域である。領域Aに該当した年齢と居住地区は、平均よりも今後優先して改善していく必要があると感じている領域である。領域Aは、年齢別では「20歳代」など2項目が該当しており、地区別では「本庁」のみが該当している。

- ・領域B：【維持保全領域】；東・中川・中山

満足度が高く、重要度が高い領域である。領域Bに該当した年齢と居住地区は、平均よりも持・保全に努め、場合によっては改善していく必要があると感じている領域である。領域Bは、年齢別は該当せず、地区別では「東」など2項目が該当している。

- ・領域C：【継続維持領域】；20歳未満・30歳代・40歳代・70歳代以上、宮生

満足度が高く、重要度が低い領域である。領域Cに該当した年齢と居住地区は、平均よりも継続して維持管理が必要と感じている領域である。領域Cは、年齢別では「70歳代以上」が該当しており、地区別では「本庄」など2項目が該当している。

- ・領域D：【改善見直し領域】：40歳代、山元・西郷

満足度が低く、重要度が低い領域である。領域Dに該当した項目は、平均よりも改善方法も含めた見直しを検討する必要があると感じている領域である。領域Dは、年齢別では「30歳代」など44世帯が該当しており、地区別では「山元」など22項目が該当している。

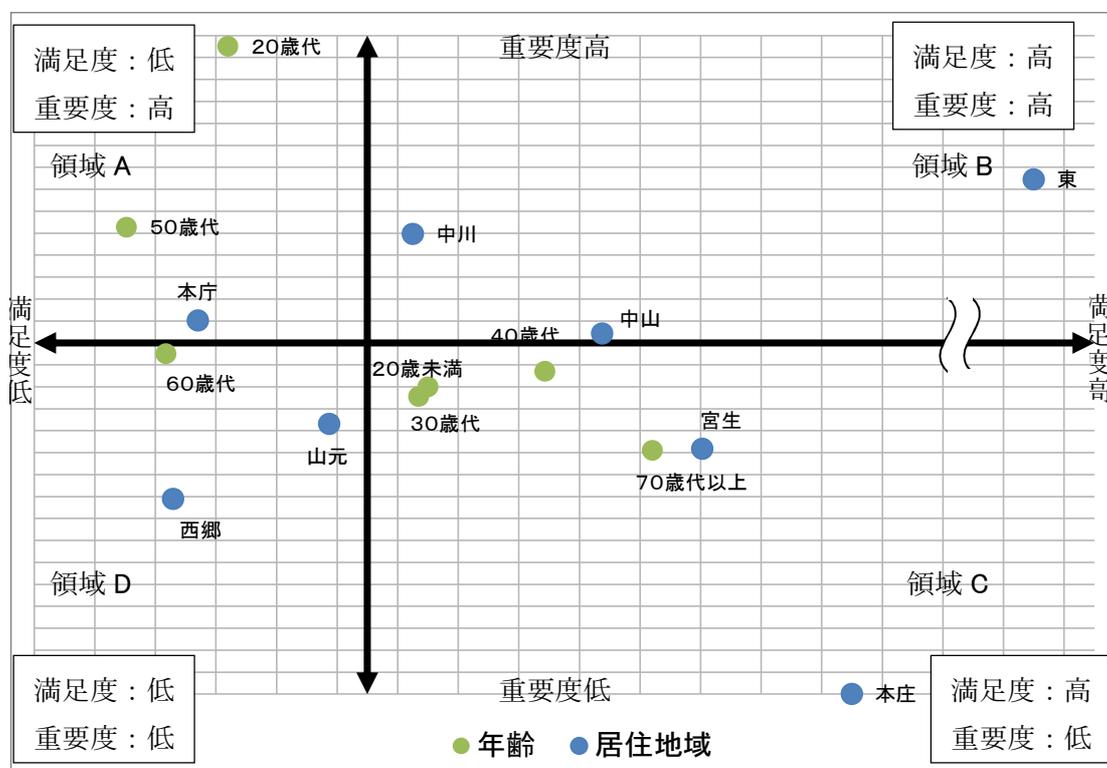


図 年代別と居住地域別の相関図

※図の中心は、全体値である。

## (2) 今後「道路」で特に必要なことについて

問10. 今後、「道路」で特に必要だと感じることは何ですか? に関する回答を整理する。

○項目別

- ・回答が最も多かった項目は、「市内を連絡する道路の整備」であり、次いで「歩道や交通安全施設の設置」、「長年にわたって未整備な幹線道路の整備」と続いている。

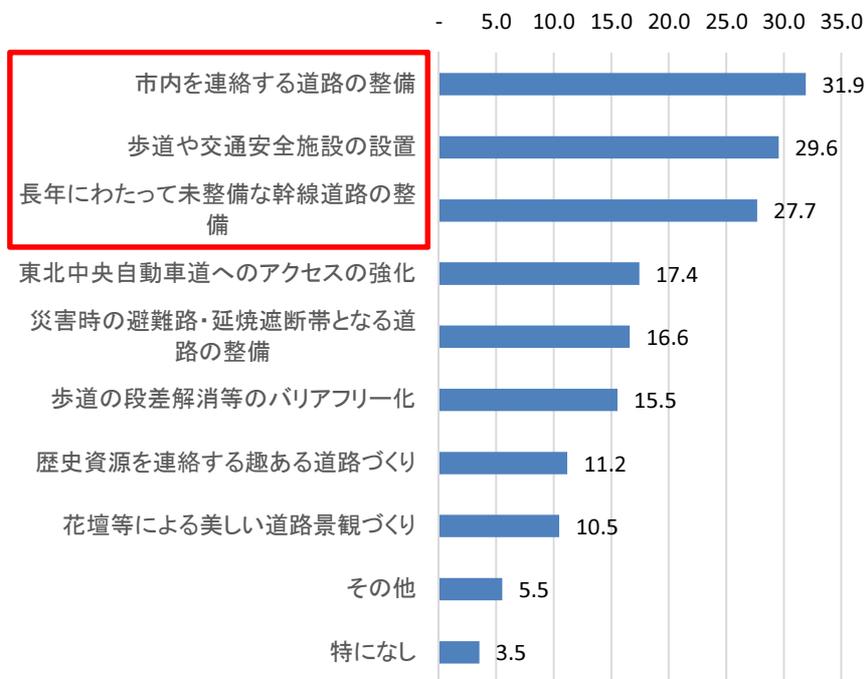


図 項目別アンケート結果

## 資料編

アンケート調査の問10の回答にて、「市内で連絡する道路の整備」および「歩道や交通安全施設の設置」の具体的な整備要望箇所を未整備の都市計画道路別に整理する。また、自由意見の一覧も添付する。

### 資-1 カルテ対象区間のアンケート調査の整備要望

- ・整備要望箇所が最も多かった路線は、「高松四ツ谷線」であり、次いで「湯町松山線」、「かみのやま温泉駅新湯線」と続いている。
- ・希望要望箇所が最も少なかった路線は、「矢来南町線」と「長清水湯町線」であり、次いで「かみのやま温泉駅松山線」と続いている。
- ・カルテ別では、「高松四ツ谷線」のカルテN0①-1の対象路線が最も多く、次いで「高松四ツ谷線」のカルテN0①-2の対象路線、「かみのやま温泉駅新湯線」のカルテN0⑤の対象路線と続いている。
- ・さらに、「長清水湯町線」のカルテN0②-2の対象路線が最も少なく、次いで「長清水湯町線」のカルテN0②-1の対象路線、と「矢来南町線」のカルテN0⑥の対象路線と続いている。

表 未整備の都市計画道路別整備要望箇所一覧

路線名	総数	カルテNO	数
高松四ツ谷線	46	①-1	27
		①-2	19
長清水湯町線	1	②-1	1
		②-2	0
かみのやま温泉駅松山線	2	③	2
湯町松山線	15	④-1	3
		④-2	6
		④-3	6
かみのやま温泉駅新湯線	9	⑤	9
矢来南町線	1	⑥	1
河崎金生線	2	⑦	2
合計	76	合計	76

なお、具体的な整備要望箇所の代表的な区間としては、次の通りとなっている。

《代表的な区間》

- ・弁天～カミン前、十日町通り、新丁坂下～カミン、ヨークタウン周辺、新湯～湯町、南中～東宮新橋、駅～上山城、二日町～十日町など